

二、研究対象 男子二十名 女子三十四名

三、研究方法 ソシオメトリック・テスト

四、実施方法 面接法と行動観察

五、調査の処理

(1) ソシオメトリックス

(2) アトムソシオグラム

(3) ソシオグラム（性別、地理的要因、知能）

六、結果の要約

(1) インフォーマルな四大グループに分離しフォーマルなグループが点在している。

(2) 遊びのグループは同性のものを求めて成立している。

(3) フォーマルなグループの方が地理的結合が大である。

(4) 活動的行動に積極的な関心を示しあまり知能に関係ない。

(5) 女子は同程度の知能の仲間が結合し想像的、演劇的な遊びを好む。

(6) 個人及び集団から排斥されている児童は同一人であると判明する。

## 第二次テスト

研究期日 昭和三十三年一月

研究対象 方法、調査の処理は第一次テストと同様

結果の要約

(1) グループの大きさは男子の場合、社会的意識が発達すると構成人員が多くなり、集団的行動が盛んになる。

(2) 幼児期のグループは離合集散がげしく持続性がない。

(3) 幼児期には真の「好きな友人関係」は成立しない。

結果の活用

(1) 中核的勢力のある児童をリーダーとして扱う。

(2) フォーマルグループに集団参加の機会を与える。

(3) 嫌悪されている児童には自己の特性をみつけ社会的認容を受けさせ、所属欲をみたせてやる。

## 家族成員の地位と役割の

### 時代的变化について

愛育研究所 高橋種昭

わが國の家族は、敗戦を機に、従来の家父長制に基く「家」の崩壊と共に、大きな変化を示し、その内部における親子関係、夫婦関係においても、従来の上下関係による支配隷従の関係から、成員相互間の信頼と尊敬による親和的關係の方向に新しい動きを示している。このような変化は、家族を構成する家族成員個々の家族内において占めるべき地位、果すべき役割の変化をも当然に伴い、ある成員の従来認められていた地位は他の成員によって否定され、ある成員が果さねばならぬと考えている役割は他の成員から無用視されるというような無秩序と多くの混乱が現在においては存在している。

家族関係が、児童の性格形成に重大な影響を与えるものであり、父親・母親の態度、行為を通じて自己の属する社会の価値体系を想像し、役割体系を自己のものとし、社会的性格というものを獲得するものであることを考えれば、現在のような時代と混乱は莫大なるものである。

意味を持つものと云えよう。

しかしながら、現在の無秩序と混乱の中にあっても、古い因襲や「しきたり」などにとらわれないで、新しい家族関係を確立しようとする建設的な努力は、例えば父親の子どもに対する、従来のような権威的な隔絶的存在から、身近に愛情を直接的に示す存在へ向かうとしてなされているいろいろな努力の中や、母親の、夫に対して、自己の地位を夫と平等なものとして、自己を堂々と主張するようになった態度の中、子どもを一個の人格として認めるようになった両親の態度などにはっきり表れている。そこで今回は、このような動きが、具体的にはどのような型で表れているか、ということを家族成員個々について、私共がおこなった家族関係に関する調査を中心に考案を試みてみた。

## 保育所における幼児と

### 動物との関係について

— 自然観察のカリキュラム

構成に関する一考察 —

広島・やわらぎ学園保育園

樋口三紀子

この研究は保育所における自然観察のカリキュラム構成に関する基礎的研究の一つとしておこなったもので、保育所内における幼児

の生活の中から彼らと動物との関係を多角的に観察調査し、次の結果を得た。

- (1) 保育所内で、幼児が比較的身近に観察出来る動物は、家畜五種、自然的動物二十五種で、これらの種類は季節的に変化し、幼児がより多くの動物に接しうる期間には、おのずから限界がある。
  - (2) 幼児がこれらの動物に接する頻度は、女兒に比して男児が著しく高く、自然的動物において特にそれらの違いが甚しい。
  - (3) 幼児に動物の名を聞き、その正解率を調べると、年令差、男女差がみられた。すなわち正解率は年令の増すにしたがって高くなる。この傾向は三才から四才にかけて特に著しい。男女差は年令が増すにしたがって著しくなる。
  - (4) 動物を、家畜、自然、動物園の三群に分けた場合、家畜は他の動物群に比して、幼児の正解率は高く、しかも他の動物群においてみられる男女差はほとんど認めがたい。これは家畜が他の動物にくらべて、幼児の接する機会の多いことに原因し、動物に接する頻度が正解率に平行する結果が得られた。
  - (5) 幼児の絵本には家畜が最も多く扱われ、自然的動物はごくわずかである。
  - (6) 自然的動物も絵本に扱われている場合、その正解率は高まり、正解率が絵本によっても強く影響されていることがわかる。
- 以上の調査事実から自然観察のカリキュラム構成にあたっては、使用する動物を所内に求め、幼児の年令差、男女差をじゅうぶん考慮に入れるべきであることがわかった。また動物に対する理解は直接的観察と絵本からの知識の複合によって、より効果をあげることが分った。